



社会学類

への招待



*A Guide to
College of Social Sciences, University of Tsukuba*

ようこそ社会学類へ

社会学類長 五十嵐 泰正

社会学類は、社会学・法学・政治学・経済学の4つの主専攻から構成され、それぞれの専門性の特徴を理解しながら、社会を横断的・複合的に把握する力を養う場です。1973年の筑波大学開学とともに出発した本学類は、半世紀を超える伝統を受け継ぎつつ、新しい課題にも正面から向き合い続けています。現代の社会課題は複雑性を増し、単一の固定的な専門知のみから全体像を把握するのは不可能です。そうした社会課題に向き合っていきたい学生にとって、1～2年次に幅広く社会科学諸分野に触れることで多様な、そして自分の適性にあう社会の見方や方法論を学び、それを2～4年次に各主専攻の専門講義や、少人数の演習などで深めていくことができる社会学類は、最適の選択肢だと言えるでしょう。

社会学類が大切にしてきたもう一つの姿勢は、ローカルな視座とグローバルな視座の双方を鍛えてゆくこと。グローバル化が急速に進む現在、私たちの目の前にある「この街／この現場」の問題は、世界規模の構造変容と深く結びついています。人口減少と移民の増加、国際観光の増大とオーバーツーリズム、エネルギー危機と地球温暖化、脱産業化・情報社会化と中間層の解体——これらはすべて、グローバルな構造変容を深く理解してはじめて、足元のローカルな現実が読み解ける事象であり、足元のリアリティへの繊細な目線なくして、グローバルな変動も把握できません。この双方向の往来こそが社会科学の醍醐味であり、本学類の教育の根幹をなしています。

だからこそ社会学類では、教室での学びにとどまらず、現場の人々と向き合いながら問いを立て、データを集め、理論と往復しながら考える経験を重視してきました。コンテンツ制作会社、法廷、中央・地方官庁から、社会運動団体や市民活動団体、農漁村や商店街、中小製造業まで、訪れる国内外の現場は4主専攻それぞれのテーマに沿って多岐にわたります。ただ、「現場に出て考える」という実践の中で培われた問いを立てる力・聴く力・伝える力は、卒業後にどのような分野に進もうとも、複雑な現実に向き合うための確かな基盤となるはずで、社会学類はそのための環境を惜しみなく提供します。ともに学びましょう。



目次

筑波大学・社会学類について

カリキュラム	1
各主専攻の紹介	2
●社会学主専攻	2
●法学主専攻	3
●政治学主専攻	4
●経済学主専攻	5

教員紹介	6
4主専攻から	10
卒業生の声	12
卒業生の進路	14
「社学生」の生活	16
入学案内	17



筑波大学・社会学類について

社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、法学部（法律学科・政治学科）、経済学部、社会学部（ないし文学部社会学科）にそれぞれ所属しながら、他学部（他主専攻）の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はともすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少人数形式の入門演習や演習（ゼミナール）が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状（科目）は高等学校一種（公民）です。

このほか、学生が生きた学問を体感できるように工場見学や施設見学を行ったり、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷教室で講義を行ったりしています。

社会学類と関係する大学院

社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられています。社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究群（国際公共政策学位プログラム、国際日本研究学位プログラムなど）があり、その他に生命地球科学研究群、人間総合科学研究群、システム情報工学研究群、ビジネス科学研究群、2027年4月に開設予定の学際創成学院などがあります。

社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。

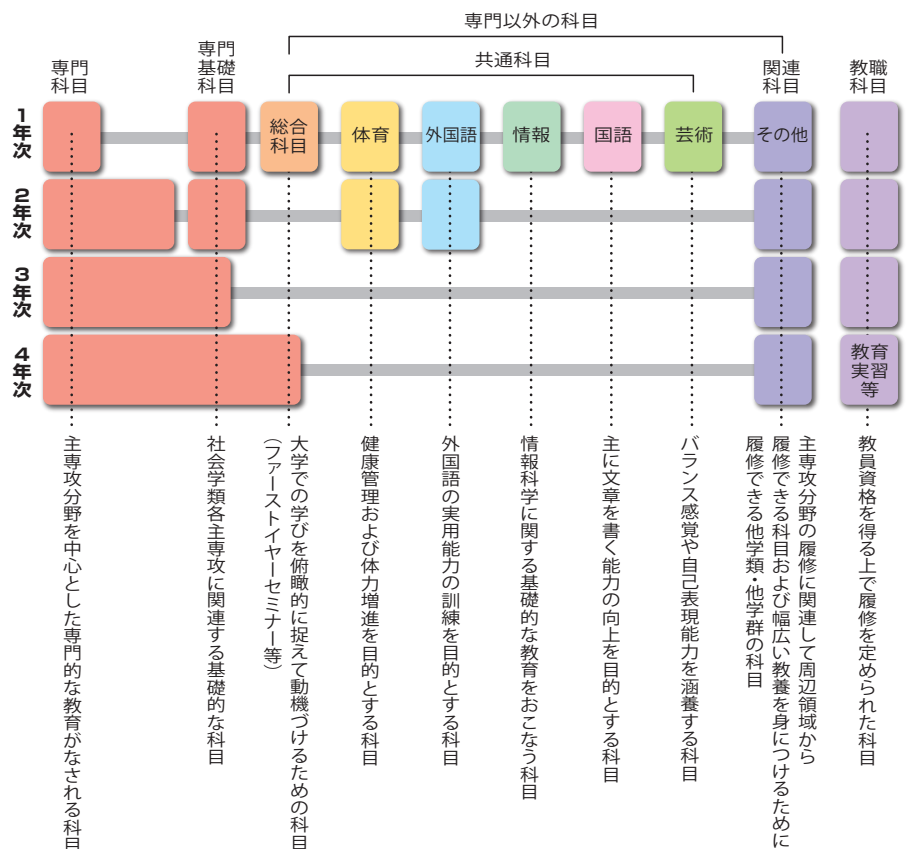
Curriculum

カリキュラム

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供しています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかった学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では体育、外国語、情報、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



社会学主専攻

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらに見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えない関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・犯罪・労働・ジェンダー・社会階層）、文化社会論（若者・スポーツ・メディア・知識・歴史）、公共政策論（医療・福祉・教育・科学・都市・家族）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒論タイトル抜粋」を見てみてください）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本主専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学研究法および社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開講しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究群（国際公共政策学位プログラム社会学分野）をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。



専門科目の授業風景



つくば子育て支援総合センター



いわき市の海と水産業（社会調査実習）

卒業論文タイトル抜粋（令和7年度）

- 妻の高収入が生む家庭内の役割変化と階層帰属意識の変容
- 日本社会におけるレジ袋無料配布の問題化過程の検討
- ファン文化における空間構築の社会学的研究
- 地域で「アートプロジェクト」はどのように語られるか
- プロスポーツ選手の妻の表象に関する社会学的研究
- 生のカタストロフィ
- 少年犯罪における医療化の順機能と逆機能
- 感動ポルノ的表現にみられる理想の障害者像の構築

法学主専攻

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるとを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題、少年犯罪、児童虐待の増加等、「法的」な問題を毎日のように目にします。また、グローバル化の進展にともなう、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えています。法というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・グローバル化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる事象の把握を教育の中心においており、そうした教育を通じて、幅広い法に関する見方、考え方を養うことを主眼としています。法に関する多様な学びを通じて、法の社会的役割を適正かつ多角的に理解し、分析するための評価し、社会科学の一分野としての法学の役割を考察することができるようになります。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な事象と法の関係を検討・分析する科目により構成されており、幅広いものを含んでいます。そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察し、法という規範の役割について検討する観点と判断力が、社会科学を総合的に学ぶ中での法学の学びなのです。様々な法に関する講義から、少人数形式のゼミナールや、卒業論文執筆（任意）にいたるまで、法に関する議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

主な進路として就職、進学が挙げられます。就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています。また、大学院に進学した後、弁護士や国家公務員として活躍している卒業生や、研究者として活躍している卒業生もいます。本学大学院では、2027年4月開設予定の学際創成学院の創成法学学位プログラム、人文社会科学群の国際公共政策学位プログラム、国際日本研究学位プログラムで法に関する学びを深めることができます。



演習の風景



授業風景



模擬法廷を使った授業風景

卒業論文タイトル・演習テーマ抜粋（令和7年度）

- 国際的著作権保護の枠組みと日本の著作権管理 ●積極的安楽死に関する法哲学的考察 ●日本の人権教育の現状と課題
- The Role of UNHCR in Addressing Climate-induced Displacement ●憲法論文作成講座
- 性犯罪に関する立法論・解釈論上の問題 ●現代人権論やリベラリズム思想史の法哲学的研究 ●民法の問題点の検討
- 少年司法制度と修復的司法 ●Comparative perspectives on legislation and case law

政治学主専攻

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないのです。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものの見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。



演習の風景



他大学との合同演習後のBBQ



中央省庁訪問

卒業論文タイトル抜粋（令和7年度）

- ロシアによるウクライナ侵攻とNATOの東方拡大 ●自己決定権の理念と現実—Voice to Parliamentをめぐる国民投票の分析
- 日本で暮らす外国ルーツを持つ子供たちに対する学校教育における支援策の考察
- ヒロシマ・ナガサキにおける原爆の記憶の継承と核兵器に関する政策の関連
- 地方公共団体における首長の在職年数が政策過程に与える影響—首長候補者と市民の政策選好に着目して

経済学主専攻

経済学への招待

経済学は、社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野です。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視します。また自然科学と同様に、明確な仮定を設定し、それを客観的データを用いるなどして論理的に明らかにしていきます。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、現代の社会問題を客観的に、そして検証可能な形で思考するために必要不可欠な手段です。

教育方針と特色

経済学主専攻では、経済学の基礎的な分析手法を段階的に学ぶことができるカリキュラムを設定しています。これに加え、理論や政策から歴史および現状分析に至る教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題を体系的にとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、キャンパスを飛び出して工場見学を実施したり、日本銀行や証券取引所見学を実施するなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的にを行っています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。



工場見学（クリーンルームにて）



講義風景



横浜国立大学と合同演習後の集合写真

卒業論文タイトル抜粋（令和7年度）

- ゲーム理論を用いたイランの対米政策研究
- 金融ネットワークの安定化政策に関するゲーム理論分析
- メッセージ付き囚人のジレンマゲーム実験とその理論分析
- ネットワーク構造と情報格差が社会的選択に与える影響
- ネットワーク構造上におけるノードの戦略的ターゲティング理論
- 限定的な認知能力に基づく不完備契約
- 実質所得増加状況下における日常的な選択の変化
- 行動経済学の消費者選好仮説に基づく説得的広告に関する理論分析

教員紹介

＊上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

社会学主専攻



いごらし やすまさ
五十嵐 泰正

「都市社会学」「地域社会学」「社会学演習」「社会調査実習」▶【都市社会学／コミュニティ形成論】▶「大学

の中に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」でこもとも。否定はしません。「社会は社会に出てから肌で覚えるから、社会学なんていらないよ!」それはどうかな?「社会」には、たくさんの<社会>があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を遡れば想像もつかない<社会>があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る<社会>が待っています。そうそう、大学もひとつの<社会>です。「社会人」になってから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまな<社会>にまみれながら、いくつもの<社会>の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



うらの えじそん
ウラノ・エジソン

TISS Program:
Social Issues in
Contemporary
Japan,

Comparative Society, Public Policy, Transnational Social Policy など▶【国際社会学／国際社会政策】▶移住労働者の増加や企業の国際展開などにより、国家を単位とした公共政策が社会保障、雇用、所得再分配などの二重に広えられなくなっています。こうした「矛盾」を念頭におきながら、社会政策のグローバルな枠組みについて一緒に考えましょう。



かしま たかし
加島 卓

「社会学基礎論」「メディアと情報化の社会学」「歴史社会学」「社会学

演習」▶【メディアの社会学／デザインの社会学／質的調査】▶社会学を学ぶ面白さは、偶然性を考える点にあります。たとえば、入念に準備をしても上手くいかない場合や、逆に準備をあまりしていないのに上手くいく場合があります。またみんなで一生懸命に取り組んでも、誰もが望まない方向へ事態が展開することもあります。社会はこうした偶然性にあふれており、こうした偶然性がいかにして可能になっているのかを考察するのが社会学です。メディアやコミュニケーションをめぐる「なんでこうなっちゃうの?」を丁寧に考える。そんな社会学をみなさんと目指します。



かつらやま やすお
葛山 泰央

「知識社会学」「現代社会学の系譜」「社会学演習」▶【言説分析／知識

社会学／フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営みの特徴付けているのは、さまざまな社会(的事象)をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会からの視線」とが互いに織り成す、ある種の往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。

法学主専攻



あきやま はじめ
秋山 肇

「憲法I」「憲法II」「比較憲法」「憲法演習I-IV」「平和と法」「国籍・無

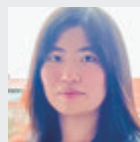
国籍と法」「International Human Rights Law」▶【憲法／国際法／国際機構論／平和研究】▶グローバル化が進む今日において、私たちが抱える問題は、より一層複雑化し、多様な視点から理解・分析・解決策の模索を行う必要があります。社会学類は、問題を多面的に捉え、その解決策を考えたい方にぴったりの学びの場です。例えば、法や憲法が解決できる問題がある一方で、社会学、政治学、経済学など様々な学問領域を駆使することで、法の限界を克服し、より良い解決策を導くことが可能になることもあります。素晴らしい仲間(=学生、教職員)とともに、国内外の幅広い問題について多角的かつ批判的に議論し、日本の、そして世界の未来を創っていきましょう。IMAGINE THE FUTURE together!



おるとらーに あんどれあ
オルトラニー
アンドレア

「Japanese Law I, II」「Comparative Law I, II」

「International Corporate Law」「Seminar (contract law)」(社会学国際学教育プログラムTISS)▶【比較法、日本法】▶法律以外の「法」とは何か。比較法、社会的規範に焦点を。全ての社会には、法律、習慣、社会的規範、その他多くのルールの複雑な体系があります。伝統的に、法学は実定法の分析に焦点を当てていますが、私は、法を単なる成文法の集合体ではなく、複雑な社会現象として捉え、法律と社会や、公式と非公式なルール間の相互作用にも焦点を当てます。さらに、私のアプローチは比較的ですが、文化が法律や社会的規範などに与える影響を理解するために、いくつかの法体系を考慮に入れています。



かどた みき
門田 美貴

「憲法演習VII」▶【日本国憲法／比較憲法】▶「法学」は、多くの「約束ど

と」や「作法」があり、初学者には取っつきにくい学問だと思われがちです。概念についての定義、そして裁判所による判断など、多くの前提があらかじめ「決められている」かのように感じ、最初のうちは非常に窮屈に感じるかもしれません。しかし、同時に、法学はすぐれた社会的な学問です。社会の発展、グローバル化や技術の進展によって、権利侵害の脅威も刻々と変化するなか自由についての考え方が問い直され、個人の救済やより良い社会の実現を考えていくことが求められています。このように、「閉ざされた体系」としての法学から出で、新たな問題の解決を考えることにこそ、法学の面白さがあります。この解決方法も、時代や国によって様々なところも見どころです。同時代には会えなかった人とは書物を通して、そして是非日本だけではなく世界中の色々な人と対話をして、自分なりの感性を育てていってください。



くすのき しげのり
楠 茂樹

「経済法」「商法I」「経済法演習I-II」▶【経済法／政府契約法／法と経

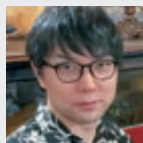
営・経済】▶経済社会はこれまで以上に速いスピードで変化し続けています。通信技術やコンピューター技術の飛躍的な発展は企業の経済活動を活性化し、人々の生活を豊かにしつつも、その結果、産業構造は複雑化し、現代的な市場環境における競争を脅かす新たな独占や支配の構造が作られつつあります。ここで重要になってくるのは法的環境の整備ですが、既存の法的枠組みでは対処できない問題が多くなり、法学の世界は今、隣接諸科学と連携し、新たな時代の新たな知見を探究する必要性に迫られています。そういう「未踏の世界」を皆さんと一緒に考えていきましょう。



しずまさ あやか
鈴木 彩加

「現代社会論」
「ジェンダー社会論」
「社会学演習」
▶【ジェンダー論／

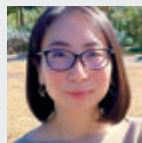
社会運動論／家族社会学】▶女をばなぞ軽しむる女より生れぬ人のあらじと思ふに—この歌は今から100年以上も前、女性に参政権がなく、教育を受ける機会も限られていた時代に、茅野雅子という歌人が詠んだものです。ここで鋭く提起されている問いに、みなさんならどのように答えるでしょうか。現代においてもなお、社会には性別を理由とした様々な格差や不平等が存在し続けています。それらを研究するのが、ジェンダー論という学問です。授業ではジェンダーというレンズをとおして社会をみつめ、考える力・表現する力を身につけていきます。



あしな たくと
三品 拓人

「福祉社会学」「社会学演習」▶【家族社会学／子ども社会学／社会的養

護】▶「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。」有名な冒頭からはじまるこの物語は、社会学という学問に通じているように感じます。時間は常に進み、社会にも私たち個人にも変化が生じます。人生、必ずしも良いことばかりとは限りません。子どもの頃、大人になってから、あるいはもっと年を重ねていく過程で、様々な「困りごと」に直面することがあります。生きている中で生じる個人的な悩みは、実は社会的な問題とつながっているかもしれません。そのような時こそ、社会学という学問を通して身に着ける力が役に立つと思います。「社会とは何か」という終わりなき問いに向かって、一緒に歩きましょう。



めぐろ あすか
目黒 茜

「科学社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【科学社会学／歴史社

会学／専門職論】▶社会学を学ぶ醍醐味は、当たり前を疑ってみることや社会問題への関心を深めることなどもあります。何よりも他者への想像力を高めていくことにあります。現代社会に生きる私たちは、社会の変容のなかで個人化というものを経験しているといわれていますが、いくら個人化が進んだとしても、人はひとりで生きていけるわけではありません。人間と人間の関係性があるからこそ社会があり、自由や平等、連帯を目指してきた近現代社会の歴史は、今を生きる私たちにもさまざまなことを教えてくれます。他者への想像力を高めていった先にみえるものを、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。



もり なおと
森 直人

「教育社会学」「労働社会学」「社会階層論」「社会学演習」▶【社会階層

論／教育社会学】▶「学生時代の私は、教育と格差・不平等の世代間連鎖の問題を考えるとところから社会学の世界に入りました。講義のなかで示される「通説」に納得できない違和感を何とか言葉にして、授業が終わったあとの教壇にいた教師に話した覚えがあります。教師の答えは、「その問題はじつはまだ十分よくわかっていないのですよ、ぜひあなた自身で明らかにしてください」というものでした。不思議な解放感とともに、「これが大学か」という思いを抱いた最初の記憶です。すでに明らかにされていることを鵜呑みにするのではなく、新しい疑問を見出し、答えを模索する。その自由を、学生のみなさんとともに体感していきたいと思います。



さい ゆんち
蔡 芸琦

「刑法総論」「刑法各論」「刑法演習 I～IV」▶【刑法学】
▶刑法199条によ

れば、「人を殺した」者は、殺人罪に問われます。たとえば、ナイフで人の心臓を刺す行為は、「人を殺す」行為にあたると考えられます。では、ある飛行機には時限爆弾が仕込まれていることを知りつつ、その飛行機の搭乗を勧める行為は、「人を殺す」行為にあたるのでしょうか。不注意で車を他人に衝突させ、人に重傷を負わせたにもかかわらず現場から逃走する行為は、「人を殺す」行為にあたるのでしょうか。言葉には、たくさんの解釈の可能性があります。法の解釈の楽しさを実感できる分野の1つが、刑法学です。



しのはら つばき
篠原 翼

「契約」「国際法演習 I・II」「スイス法」「デジタル社会と法」▶【スポー

ツ法／Eスポーツ法／国際関係法／国際人権法／スイス法／テクノロジーと法】▶法学を学ぶことは、社会における様々な現象を理解することの意味しています。社会は法によって秩序を保っており、法学を学ぶことは、皆さんがこれから社会で生きていく上で非常に役立つものになるはずです。皆さんが家で水や電気を使うことができるのも、インターネットを使用できるのも、すべて「契約」を結ぶことでそのサービスを受けることができます。皆さんが自由に発言することができるのも、憲法や国際条約によって「表現の自由」という人権が保障されているからです。私たちの社会は、「法」とは切り離せないものになっております。「法」を常に自分と密接に関わっているものだと考えて、法学の学習に興味を持っていただければと思います。



こやま こうすけ
木山 幸輔

「法学概論」「法哲学」「法哲学演習 I-VI」「法哲学特論」「法哲学小論

文演習」▶【道徳・政治・法哲学】▶「法学」って、とっても「堅そう」ですね。噛むと歯が折れちゃいそう。だから、柔らかくアプローチしてみるのが良さそうです。本学にはそのきっかけや場所が多くあるはず。大事な柔らかさは、他者とのあいだで、他者の視点も大事に自分の考えを生成・変化させていく、そういう態度です。哲学的に考えてみたり、本や友達、教員と関わったり、サークル、バイト、生活の中で考えていく。そうした中で、「私が考えたいのはこれだ。で、こういう風に考えられるかな（ただし暫定的）」という答えを見つけれられるかもしれません。美味しく咀嚼できたときの喜びは保証します（こんなの食べていていいのかな、と思うかもしれませんが）。皆さんと充実した時間を過ごせますように。



しゅう りゅう
周 篠

「刑事訴訟法」「刑事政策」「刑事政策と法演習」▶【法社会学／刑事政

策】▶「法とは何か」と問われたとき、まず思い浮かべるのは法令や裁判でしょうか。「法は加害者を守る」と聞いて驚きますか？——実は、刑事訴訟法はまさにそのための法です。国家が圧倒的な力を行使する刑事手続において、被疑者や被告人の人権を守ることが不可欠です。これは、「正しさ」や「公正」をめぐる社会の感覚＝作法に基づいた制度でもあります。私は法社会学を専門とし、法を単なる統制装置ではなく、人間と社会の「作法」と交差する場としてとらえています。法学の面白さは、そこにあると信じています。

教員紹介

*上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

法学主専攻



なかぞら もえ
中空 萌

「法人類学」「開発法学」「法人類学演習I-II」▶文化人類学、法人類学、

科学技術社会論▶学生時代、28カ国を貧乏旅行しました。自分の常識が通じない世界があると身をもって知った経験は、自分が揺らぐ怖さとともに、大きな解放感をもたらしてくれました。そんなふうに遠くに行かなくても、大学生活は他者との出会いに溢れています。サークルの友人や教員、ときに動植物やロボットまで。すぐにはわかり合えない存在と出会ったときに、相手と自分を冷静に見つめ、試行錯誤を繰り返しながら関係を築いていくことで、新しい生き方がきつと見えてきます。文化人類学は、他者とともに生きる醍醐味と難しさ、人間の多様性と普遍性を学ぶ学問です。文化人類学の視点から、「バラバラなままと一緒に生きる」ための「法」について考えてみませんか。

ほしの ゆたか
星野 豊

「契約」「債権総論」「信託法」▶【民法／信託法／金融法】▶少なくとも学群生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。

政治学主専攻



あかし じゅんいち
明石 純一

「国境を越える政治」「国際政治経済学」▶【移民・難民研究／アジア

地域の国際人口移動に関する政策分析／グローバルガバナンス】▶人（あるいは労働力）・物（商品）・金（資本）、そして情報があたかも自由に国の境界線を越えているかにみえる現代社会を、「ボーダーレス」と形容することが増えました。グローバル化により世界は「ひとつ」になる、ということも頻りに語られます。しかしそれはどこまでが本当のことなのでしょうか。そもそも「国家」、「国境」、「国籍」、「国民」とは、いかなる実体を表す概念なのでしょうか。世界各国を放浪していた大学時代にふと頭に浮かんだこの疑問に取りつかれ、今もまだ回答を探している最中です。政治学を含む社会諸科学の習得と行動による実体験を通じて現代社会の変化と普遍性を理解すること、そのような学びの場をみなさんと共有したいと考えています。



かわい こういち
河合 晃一

「行政学」「地方自治論」▶【行政学／地方自治論／公共政策学／政策過

程論】▶私たちは行政を、自分たちとは縁遠い存在として、しばしば捉えています。しかし実際のところ行政は、私たちにとって、とても身近な存在です。ごみの収集といった日常的なサービスを私たちに提供しているのは行政です。警察や消防、公立の学校も行政です。行政について学び、その実態を把握することは、社会全体を理解する上で重要な意味を持つと言ってよいでしょう。行政学では、行政の仕組みや実態を政治学的視点で考察します。またときには、心理学や経営学の視点も組み合わせ、行政活動を担っている公務員のモチベーションやパフォーマンスを左右する要因についても分析します。常識や固定観念にとらわれず、しなやかな思考とともに学びましょう。

政治学主専攻



やまもと ひでひろ
山本 英弘

「政治学概論」▶【政治社会学／市民社会論／社会運動論／政治過

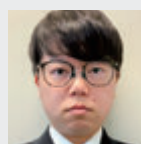
程論】▶人々はそれぞれに自分の価値や利益をもっています。このような人々が社会において円滑に共同生活を営むためにはルールが必要です。また、道路や学校などの公共施設をつくったり、感染症を予防したり、1人ではできないことを協力して成し遂げる必要があります。政治とは、このような集団で生活するための決定を行う仕組みだといえます。こうしてみると、政治は遠くの政治家がやっていることばかりではなく、我々の暮らしに身近なことがらとも関わるのがわかります。それでは、社会についての決定は誰がどのように行っているのでしょうか？決まった事柄によって、人々はどうなる影響を受けるのでしょうか？政治学を学びながら、遠そうで近い政治の世界について一緒に考えてみませんか。



たかはし ひであき
高橋 秀直

「現代経済史」「経済学演習II」▶【経済史／金融史】▶知識は断片的な情報

を相互に関連付けて整理したものです。高校までの勉強は、他の誰かが整理した教科書や受験参考書を利用するだけでした。でも、私は、他人の視点を身につけることから一歩踏み出して、自分なりのものの見方を手にしたいと思っています。新しいことを学ぶ度に、自分がすでに知っている知識と関連付ける練習を続けています。授業を通じてその一端を伝えられれば幸いです。



たなか あつし
田中 醇

「現代経営史」▶【日本経営史／日本経済史】▶旅行や出張の際に、な

るべく寄るようにしている場所があります。それは、各地域のスーパーの醤油コーナーです。全国には、同じ「醤油」という名前なのに多様な味の醤油が存在します。その味は、ある人にとっては「懐かしく」「おいしい」もので、他のある人にとっては「いつもと違う…」「甘すぎる!」ものになります。地域という軸だけでなく、時間という軸を動かしていくと、僕らが「当たり前」と思っているものは、実はそんなに「当たり前」ではないということが多々あります。一般的に人間は自らの過去に引きずられると言われます。だからこそ、歴史を学び、時代や地域にいろんな「当たり前」があることを知ることとは大事なのではないかと思います。



ふくずみ まさかず
福住 多一

「経済数学」「基礎経済数学」▶【ゲーム理論／進化ゲーム理論】▶

経済学は科学です。その体系の理論的本質の多くは、数学で記述します。これを理解するには、冷徹な論理的思考力が必要です。ただし科学的に解明する対象は、社会現象とそれを構成するヒトです。これを理解するには、社会やヒトに向けた温かい眼差しと豊かな心が必要です。このように、経済学は理系・文系の境界が無い新しい総合科学です。この若い科学を意欲的な皆さんと成長させたいと思っています。



すずき せい
鈴木 創

「比較政治学」「アメリカの政治」▶
【選挙研究／議会研究】▶新聞やテレビ

で政治が語られない日はありません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



ちえ せいよう
崔 宰榮

「計量分析入門」▶【計量政治学】▶社会をとりまく

様々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。

ぢやい いーだー
チャイ イーダー

【政治意識論/アジア比較政治学】▶アリストテレスは、善が政治の目的であり、最高善が人々の幸福を実現すると述べました。しかし、歴史を振り返ると、権力者たちは「善」や「人々の幸福」を成し遂げるという名目で、多くの人類の悲劇を引き起こしてきました。政治はわれわれと無関係ではありません。むしろ、誰も政治の影響から逃れることはできないのです。政治学を学ぶことで、良い政治体制に必要な基本要素、政治と一般の人々との関係、国家権力と人権、普遍的な価値観と世界各国の多様性を理解し、最終的に自分自身や身近な政治社会問題、国境を越えた問題への理解を深め、当事者として政治に向き合ひましょう。



みなみや あつし
南山 淳

「国際政治学」「国際安全保障論」▶【国際政治理論／国際安全保障／

グローバル化と国際紛争】▶「1人を殺せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる、数が殺人を神聖なものにするのです…」映画『殺人狂時代』（1947）の中でチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうあれ、他者の生命を理不尽に奪うという意味で、殺人と戦争の分岐を犠牲者の数に求めることは一面の真理かもしれません。ただ誤解してはならないのは、大量殺戮の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦闘行為における殺害を正当化するという点です。戦争の目的が正しいか否かの判断は、人によって、国によって、時代によって変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



ふじもと たけふみ
藤本 文史

「開発経済学」「実証分析入門」▶【開発経済学／環境資源経済学】▶

経済学は、社会の課題を考えると、抽象的な原理を最初に提示する点に特徴があります。こうした原理は、日常生活からすぐにイメージできるものではないため、学び始めたばかりの頃はその意義を実感しにくいですが、しかし具体的な事例を通じて研究を進めると、ふとその本質が垣間見える瞬間があり、そのときに経済学の枠組みが一気に腑に落ちる感覚を得ることがあります。近年の経済学は、これまでに蓄積された理論的知見と、洗練された実証分析の手法を総動員して、社会のあらゆる問題を分析し、具体的な解決策を示す、実践的で刺激的な学問へと変貌しています。授業では、こうした近年の発展を紹介しながら、経済学の面白さの一端に触れてもらえればと考えています。



4主専攻から

社会学主専攻 × 木村 愛

「個人的なことは政治的なこと」。これは第2波フェミニズム運動の中で生まれたスローガンです。個人の心の中にある疑問や違和感こそ、実は社会の制度や同調圧力、権力関係などと深く結びついているのだとこの言葉は示しました。私はこれこそが社会学だと思っています。「当たり前」と周囲が通り過ぎてしまうことでも、あえて立ち止まって問い直してみる。すると、それまで自分を縛り付けていた常識が、これからの社会を変える手がかりへと、ガラッと姿を変えることがあります。誰かのための学問が自分のための学問になり、自分のための学問がまた、誰かのための学問になる。

この営みこそ社会学の醍醐味だと私は考えています。

私は筑波大学社会学主専攻の学びにおいて他学類の授業を通して視点を広げられること、そして少人数のゼミでその理解を深められることに大きな魅力を感じています。私は教育社会学に関心があり、教育学類の授業を履修することがあるのですが、規範科学である教育学が捉える教育と経験科学である社会学が捉える教育は同じ教育を扱っていても視点や問いの立て方が大きく異なるように思われます。そして、そうした学びの中で得られる気づきや疑問を持ち寄り、深く議論できるのが少人数のゼミの魅力です。多様な関心を持つ仲間や先生方との対話を通して社会を幅広い視点から考えることは、自分自身の違和感を捉え直すことにもつながっていると感じます。

社会学主専攻には様々なご専門の先生がいらっしゃり、自分の関心に応じて多角的に学びを深められる環境があります。一人ひとりの関心を大切にしながら学べることも、社会学主専攻の魅力です。皆さんもぜひ、社会学主専攻で自分なりの問いを見つけてみませんか。



法学主専攻 × 山本 葵生

「これだから日本は」そう言う大人をどのくらい見たことがあるでしょうか。たしかに消費税は上がり続け、国債は増すばかり。家父長制の名残とその慣習はしたくもない二律背反を起こし、いまや自転車はずぶぬれになることを推奨している。いじめはなくなならないしカースト制なんかも見てきた人は多いかもしれない。理不尽や不平等、誰かの我慢で罷り通る社会はひどく生きやすく、そして歪だ。世界は弱い人の味方ではないし強い人が強くあり続ける資本主義。法律は知っている人の味方であって弱い人の味方ではない。これは紛れもない事実であると私は思う。その時、あなたはくじけますか。どうにもならないと諦めみんなと同じように見ないふりをしますか。私たち筑

波大学はそんなことしたくない。手の届かないところで見えなくなった人を見つけるのが社会学だと私は思います。そんな問題を法律の観点からなんとかしようと足掻くのが私たち法学主専攻です。実働させるのが政治学で、戦争の代わりになった経済市場を学べるのが経済学ではないかと思います。4つの主専攻はどれか1つではダメで世界を切り開いていけるあらゆる手段がここにはあります。

いつか大好きな人が知らないところで泣かないように、自分の手で理不尽や不平等と立ち向かえるように私はこの大学にきました。複数のゼミで多くの視野を得て自分なりに法を社会を政治をどのようにしていけばいいのか考える自由があるのがたまらなく嬉しいです。私たちの可能性は無限大！成人式や一人暮らし、アルバイト、20歳になるとお酒なんかも飲んじゃったり。友人6人くらいと、うちでべろべろになりながら社会課題について朝まで討論したこと、私は一生忘れません。2020年国連にてエマ・ワトソンは言いました。If not me, who? If not now, when? 私たちはここでお待ちしています。見かけたら声かけてね！！



活躍する学生 × 坂井 和心

私は社会学を専攻し、とくにジェンダー論について学んでいます。社会学の面白さは、「当たり前」と思っていたことを問い直せるところにあります。普段の生活の中で感じる違和感や生きづらさを、「個人の問題」ではなく「社会のしくみ」から考えられることに魅力を感じています。私は大学2年次に、「SODA」というジェンダーサークルを立ち上げまし



た。性について語ることは、今でも恥ずかしいことや難しいこととして扱われがちです。だからこそ、安心して語り合い、学び、行動できる場を筑波大学につくりたいと思ったことがきっかけです。活動では、意見交換会やイベント企画、生理用品のシェアスポットづくりなどを行っています。昨年度の雙峰祭（学園祭）では、「わたしのカバンはなぜ重い？——セルフケアとジェンダー展——」という展示企画を実施しました。生理用品やメイク道具、防犯グッズなど、日常的に持ち歩く「カバンの中身」を切り口に、ジェンダー規範について考える展示です。「自分の持ち物にも社会の影響が表れているのかもしれない」と気づくきっかけを、多くの来場者に届けることができました。社会学類では、身近な違和感を出発点に、社会を多角的に考える視点を身につけることができます。みなさんもぜひ、自分の「なぜ？」を社会学で探究してみませんか？

海外留学の勧め × 中杉 心香

私は大学二年生の秋から三年生の夏まで、フランスへ交換留学に行きました。社会問題に対する経済学的アプローチについて、グローバルな環境で新たな知見を得たいと考えたのが留学を志した理由です。実際に留学を通して、ヨーロッパ諸国に共通する制度的価値観や歴史背景を経済の視点から学習することができたと同時に、予想していなかった成長の機会も多



くありました。まず、授業ではグループプレゼンテーションの課題が多く、異なる言語背景を持つ学生同士で議論や作業を進めるのは、困難でありつつ非常に刺激的で身になるものでした。また、現地での外国人としての暮らしは、自分自身の当たり前を見つめ直す日々でもありました。パン一つ買うにもスーパーの価格帯と客層や店舗のモラルとの明確な相関を体感し、休暇の観光では利便性と安全性をコストと天秤にかけて公共交通機関や宿泊施設を選択する。こうした、日常の想定外に混乱しながらも考え続けた経験によって、衣食住やインフラの背後にある固有の文化的背景を実感し、自社会を客観視する新たな学びを得ました。

私にとって留学は、自分と人、そして社会とのつながりを問い直す経験でした。人と社会について学びの先も関わっていく上で、一度自分を異なる社会の中に置いてみることに大きな意味があると思います。

政治学主専攻 × 滑川 開斗

政治学というと、国会や選挙、政党を思い浮かべる人が多いかもしれませんが。しかし、研究対象はそれだけにとどまらず、地域のまちづくりや教育、災害対応など私たちの暮らしに身近な問題も重要なテーマです。人々の意見をどのように集約し、限られた資源をいかに配分しているのか、社会問題の解決を論理的に紐解いていくプロセスこそが魅力だと感じています。また、政治学の面白さは「理論」と「現実」の両面からアプローチできる点にあると考えます。現在の政治学主専攻には、データサイエンスや統計分析を得意とする教員が多く在籍しており、数値やアンケートデータを駆使した実証的な分析手法についても深く学ぶことが出来ます。

3・4年次におけるゼミ活動では、このようなデータ分析の手法を用いて、現実の社会問題を解決するための政策リサーチについて取り組みます。文献の輪読を通じて基礎的な知識を身に着けた後、グループごとに実際の政策や課題について検証をします。議論の過程で生じた疑問は教員も含めてゼミ全体で共有するため、難しい内容も少しずつ理解を深めることができます。私が所属する行政学ゼミでは国や地方公共団体の政策、計量政治学ゼミでは政党と有権者の関係を主に分析していますが、本専攻のカバーする領域はそれだけに限定されません。他国の政治制度や政治思想、安全保障やグローバル化など、国内外の幅広い課題をテーマにします。ここで身につく社会理解やデータ読解、課題解決の力は今後どこへ進んでも役立つと思います。政治学主専攻で複雑化する社会課題に引き合い、よりよい社会を考える力を一緒に身につけてみませんか。



経済学主専攻 × 塚本 伶

「社会を数理モデルで書き表し、実用的に扱えるようになりたい。」私が経済学を学び始めた原点はここにあります。

この目標のためには、経済学以外にどんな知識や能力が必要でしょうか。経済学を体系的に記述していくためには、数学、英語、日本語が必要です。しかしその前に、社会も学ばなくてはなりません。そして社会のルールを決める法、その法を作る政治についても学ぶ必要があります。これらすべてが共存する社会学類は、私にとって最適な環境です。

三年次から始まるゼミでは、最初の二年間で培った基礎を基に専門分野を学んでいきます。私は「経済史・経営史」と「ゲーム理論」の二つのゼミに所属しています。

経済史のゼミでは、データの裏に隠れた人々の営みについて議論します。歴史の教科書に載っているような近代化の裏で、女工は必死に働き、生活を得て、なんと、おやつを食べていました。簡単には想像できないような彼女らの生き生きとした営みを知ることで、数理モデルという冷徹な枠組みに、柔軟で温かい視点を組み込む必要があると確信しています。

ゲーム理論のゼミでは、人々と戦略を数学的に記述し、最適な戦略を考えます。じゃんけんや進路選択、「今日は傘を持って外に出るか」ということまですべてゲームとして捉えます。アダム・スミスが人間社会を「偉大なチェス」と表現したように、実社会に基盤の目を引いてしまうような夢のある理論です。

ここまでたくさん学問についてお話しましたが、極めて親身に向き合ってくださる先生方と常にそばにいてくれる友人に日々救われています。この温かく前向きな環境での学びを皆さんにも心からお薦めします。



編入学の勧め × 小笠原 武志

私は、他大学や高专で取得した単位を活かして三年次に編入学できる制度を利用して社会学類に編入学いたしました。編入学前の大学では、主に国際関係や国際政治を中心に学んでいました。しかし、それらを学ぶにつれて政治の限界や現状を目の当たりにし、それを解決する具体的なツールとして法学を学びたいという気持ちが込み上げてきたため編入学いたしました。

社会学類の特徴は、一つの専門分野を専攻しながら、ほかの社会科学の分野も学べる点です。私は、法学を専攻し、社会学や、政治学、経済学も学んでいます。それらに関連付けて学ぶことで、現在、社会で起きている複雑な問題の本質をとらえ、多角的な視点から解決策を導き出せることにつながると感じます。編入学した当初は、新生活や交友関係に関して不安を持っていました。しかし、編入生のコミュニティやサークル、授業などを通じて、交流の輪を広げることができ、先生や学生とコミュニケーションをとることで知見も広がり、充実したキャンパスライフを送ることができています。

今いる環境よりさらに自分を成長させたいと考えている方、ぜひ社会学類に編入してみませんか？



総合学域群からの学び × 熊谷 光陽

私は2024年に総合学域群第1類に入学しました。入学後、総合学域群第1類から社会学類へ移行するまでの経緯について、リアルにお伝えします。私から言える総合学域群から社会学類に移行する良さは、自分の変化に合わせて1年かけて判断できること、他の学問を持ち込めることです。私は、入学当初株式投資と国際経済の関連に興味があり、国際総合学類を目指していました。しかし2024年は日本と世界の政治が大転換を始めた1年でした。その1年で、いろいろ学んだ結果、経済は大学ではなく独学で学ぶスタイルになりました。社会学類には政治学主専攻があることに惹かれ、社会学類を移行先の第1志望に変えました。履修制度が私の大学生活における勉強のスタイルとマッチしていたというのも理由の1つです。私の場合は社会学類の移行に際して、大学での学びはそんなに影響を与えることはありませんでしたが、例えば建築×政治、資源×政治なども総合→社会なら不可能ではありません。総合の強みを活かして唯一無二の社学生になってください。



社会学主専攻卒



NHK富山放送局 野口 美帆

私が社会学類を目指しはじめたのは、高校2年生のころ。進路指導で「将来やりたいことを踏まえて学部を選択しなさい」と言われる毎日に、若干不貞腐れていました。大学や専攻を選ぶことは幸せで前向きなことであるはずなのに、学ぶことを1つに絞るということが、人生の選択肢を狭めているように思えてならなかったのです。そんななか、社会学類という存在を知り「4専攻同時に受けられるだけではなく、他学類の授業も学べるなんて、なんて自分向きなのだろう」と興味を持ちました。

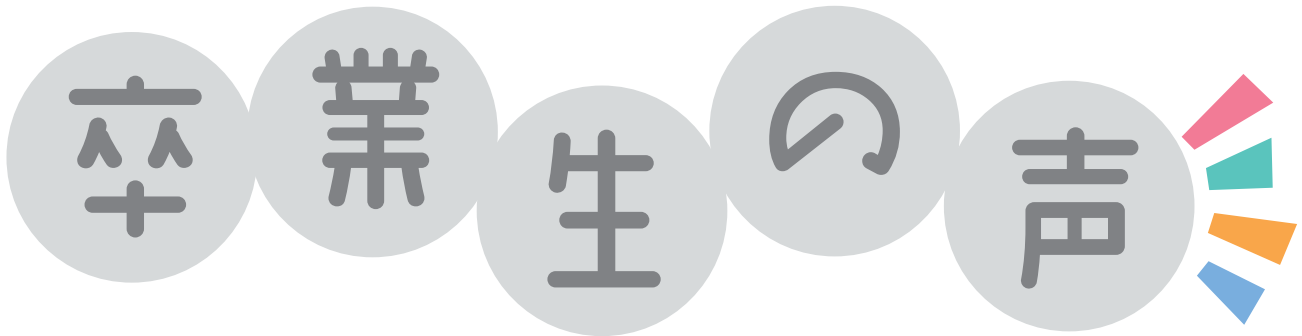
実際、入学前との乖離は一切なく、いろいろな授業を受けることができました。極端な例では、私は体育会系の陸上競技部に所属していた

ので、体育専門学群の授業をとって競技に活かすなどしていました。

2年生で社会学専攻に決めたのも、「興味があることを自由にやってみたかったから」でした。社会学という学問は、いわば「何でもアリ」。テーマや調査の方向性を決めるときは、その自由さゆえに悩むこともありましたが、ゼミの先生や仲間が親身になって相談に乗ってくださいました。自分が何となく興味を持っていたことを、社会学の名のもとに調査を進め、形にできたことは自分の自信になりました。そして何よりも、目の前のテーマと向き合い続ける「考える体力」がついたように思います。

卒業後はテレビ局でディレクターとして働いています。自分が興味を持ったことを番組にするため、文献を読み、人に会い、あらゆる形で取材を進め、仮説を立て…の繰り返しです。自由度が高い分考えることも多く、苦しいときもありますが、ゼミ論や卒論に明け暮れた日々と似ていると感じます。

学びたいことが明確な人も、そうでない人も。筑波大学社会学類で、自分の選択を正解にするキャンパスライフを過ごされることを期待しています。



政治学主専攻卒



人事院 平野 貴也

私は筑波大学社会学類政治学主専攻で学んだ後、他大学の公共政策大学院を経て、現在、人事院で国家公務員の採用に関する政策の企画・立案に携わっています。

社会学類を選んだ理由は、「政治や行政に関心はあるけれど、他の学問も幅広く学びたい」という思いからです。政治・社会・法・経済の4領域を横断できる社会学類は、1つの社会課題に対して多角的な視点から捉える力が鍛えられる、まさに理想の環境でした。ゼミでは少人数での議論を通じて、社会課題の解決に向けた思考の出発点となる「リサーチエスション」を適切に設定する方法論を深く

身につけることができました。また、大学院で公共政策という学際的な分野に挑戦する中でも、筑波大で築いた基礎は周囲に引けを取らない高い水準であったことを確信しました。

今、国家公務員として勤務して12年が経過しました。AIの発達著しい現在、社会では「課題の解決策」を探すよりも、「何が課題か」を自分なりに見つけ出すことが求められていると日々実感しています。そんな中で、考えるときの出発点となる「問い」の重要性や立て方、方法論という、基盤となる力を身につけられたことは大変貴重な機会でした。4年間という時間をつくばの地で、多くの仲間たちと濃密な学生生活を過ごす中で学んだことは今の私を形作る1つの大きな要素となっています。

もし皆さんが、かつての私のように「気になることもあるけど色々なものに触れてみたい」と悩んでいるなら、社会学類は最高の選択肢になります。多様な視点から社会を見つめ、一生を支える「基盤」をこの場所で見つけてください。

法学主専攻卒



**三菱電機モビリティ
株式会社**
上原 紗帆

私は、将来人の役に立つ仕事をしたいという漠然とした思いから、法学や社会学など領域に捉われず学べる社会学類への入学を決めました。1、2年次は各分野の基礎を学ぶので、自分の興味関心がとても広がりました。また私が社会学類に入って良い意味でギャップを感じたのは、コミュニケーションを重視した講義が多かったことです。大学の授業のイメージは、ひたすらインプットをしてテストで良い成績を取る、というものでした。そうしたイメージが強かったので、授業中の学生間や教員の方との対話の機会が多くあったことに少し驚いたのを覚えています。最初はうまく説明できずにもどかしく感じることもありま

したが、徐々にコミュニケーションのコツを掴み、相手の話を聞く、理解する、意見を述べる、という議論の基礎を身につけられたと思います。専門性を会得することはもちろんですが、対話を通じた思考力も社会学類で培ったスキルだと思っています。また、個性豊かな仲間たちとのコミュニケーションで多様な考え方やアイデアに触れることができ、自分の視野を広げ、様々な事柄へ好奇心を強く持つようになりました。

その好奇心を活かし、法学主専攻としては珍しく、卒業後は大学院へ進学しました。学類時代とは領域の異なる分野を専門に研究を進めましたが、社会学類で培った知識や柔軟性で楽しい研究生生活を送ることができました。

大学院を修了し、現在は三菱電機モビリティという企業で働いています。社会人になると、大学生の頃よりも社会との結びつきを密接に感じるので、日々世界の動きにタイムリーについていく必要があります。学生のうちに、日常の様々な出来事に興味や疑問を持つくせをつけておくとな社会人になっても武器になると思うので、柔軟な思考力で是非色々なことに挑戦してみてください。

社会学類の先輩達は当時どんなことを考え、 どんな学生生活を送っていたのか？ 今は卒業し就職した先輩達に聞いてみました。

経済学主専攻卒



香川大学経済学部
渡部 陸

私は筑波大学入学前、好きな数学を大学でも活かせれば良いな、くらいに考えていましたが、社会学類で学ぶ内にすっかり経済学のおもしろさに魅了されてしまいました。

経済学は社会、ひいては人間関係の法則を学びます。まさに人間の行動の理由について考えていきます。「二国間で協力すれば、お互いにとって利益になるが、協力できず争ってしまうのはなんで?」「労働者のために思い最低賃金を上げたら、逆に失業者が増えてしまった!」など社会には不思議な現象がたくさん見られます。これらはすべて経済学で考えることができます。

経済学の一番の特徴は「人々を幸せにする学問」である点です。これは比喻ではなく、経済学では人々の満足度を最大にすることを目的に様々な計画や政策案を提案します。人々を幸せにするには早い話、好きなだけ、皆が好きなものを購入し、飲食すればいいのです。でもそれには限りがあり、「お財布の中身」、つまり予算が足りなくなります。限られた予算の中で、最善の選択を提案するのが経済学です。

卒業後はさらに経済学の学びを深めたいと考え大学院に進学しました。現在は香川大学経済学部にて、マクロ経済学の講義を主に担当しています。マクロ経済学は一国全体の経済について考えます。限られた予算で最善の選択を提案すると書きましたが、さらに人々を幸せにする方法はあるでしょうか。「お財布の中身」を増やせば実現できそうですね。それを国レベルで考えるのが、私の研究テーマである「経済成長理論」です。

当時、社会学類の先生方から教わったことを今度は、学生の皆さんに伝えていきたいと思っています。またこれを読まれている皆さんにもぜひ筑波大学社会学類で、幅広く社会について学び、その面白さについて触れていただけたらと思います。

卒業生の進路

最近の傾向でみると、就職する者が多く、その就職先は多岐にわたります。例えば金融、サービスならびに製造業分野、(運輸・)通信業に強く、多くの人材を輩出してきました。また公務員の道を選ぶ者も多くいます。一方、大学院進学や司法試験・公認会計士などの資格試験の準備をする者もあり、将来、研究職や高度な専門職につく卒業生も少なくありません。

令和7年度

【卒業生85名(英語プログラム3名含む)】



企業就職者(47名)の内訳



A 金融・保険業 19.2% 9名	C サービス業 23.4% 11名	E 卸売・小売業・飲食店 10.6% 5名	G 建設業 2.1% 1名
B 運輸・通信業 23.4% 11名	D 製造業 14.9% 7名	F 不動産業・物品賃貸業 4.3% 2名	H 生活インフラ業 2.1% 1名

令和6年度

【卒業生85名(英語プログラム5名含む)】



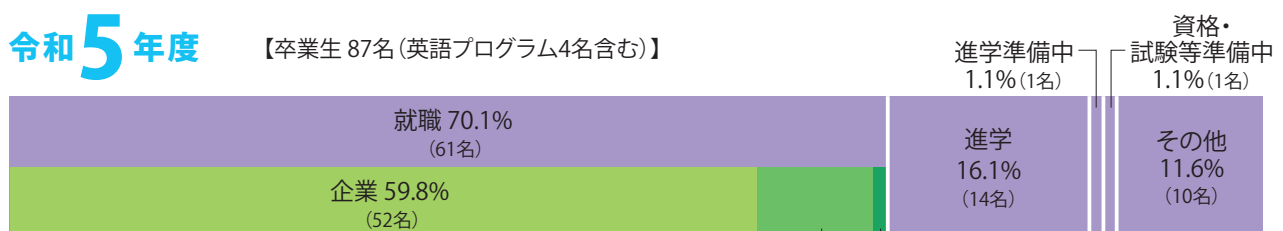
企業就職者(52名)の内訳



A 金融・保険業 23.1% 12名	C サービス業 34.6% 18名	E 卸売・小売業・飲食店 5.8% 3名	G 建設業 3.8% 2名
B 運輸・通信業 11.5% 6名	D 製造業 13.5% 7名	F 不動産業・物品賃貸業 7.7% 4名	

令和5年度

【卒業生 87名(英語プログラム4名含む)】



企業就職者(52名)の内訳



A 金融・保険業 23.0% 12名	C サービス業 30.8% 16名	E 卸売・小売業・飲食店 5.8% 3名	G 建設業 5.8% 3名
B 運輸・通信業 7.7% 4名	D 製造業 19.2% 10名	F 不動産業・物品賃貸業 7.7% 4名	

最近の主な就職・進学先（令和3～7年度）

銀行・信託業

三井住友銀行／みずほ銀行／三菱 UFJ 銀行／ゆうちょ銀行／りそな銀行／常陽銀行／静岡銀行／東北銀行／千葉銀行／八十二銀行／筑波銀行
京葉銀行／野村信託銀行／三井住友信託銀行／クレディセゾン／三井住友カード／ジェーシービー／イオンフィナンシャルサービス など

保険・証券業

東京海上日動／アフラック生命／第一生命保険／大同生命／太陽生命／コープ共済／大和証券／SMBC 日興証券／三井住友海上 など

新聞・放送業・出版業

山口朝日放送／毎日新聞／時事通信／日本放送協会（NHK）／TBS テレビ／ニッポン放送／セプテーニ・ホールディングス など

生活関連サービス・娯楽業

富士急ハイランド／セガサミーホールディングス／コンサートプロモーターズ協会／星野リゾート／サンライズプロモーション東京／日本中央競馬会 など

製造業

明治／ソニー／カナデビア、／日本たばこ産業／リコージャパン／本田技研／ENEOS／日立製作所／日産自動車／キャノン／コニカミノルタ
富士フイルム／凸版印刷／住友化学／明電舎／味の素冷凍食品／日本製紙木材／日本製鉄 など

生活インフラ業

JERA／東京電力 など

運輸・物流業

東日本旅客鉄道（JR 東日本）／東急／西武ホールディングス／日本郵船／郵船ロジスティクス／東日本高速道路／中日本高速道路／鴻池運輸
全農物流 など

住宅・建設業・不動産業

大東建託／三菱地所／鹿島建設／清水建設／大和ハウス工業／茨城セキスイハイム など

情報・通信業

Unipos／NTT ドコモ／ウェザーニューズ／ドワンゴ／日本郵便／ソフトバンク／DNP 情報システム／伊藤忠テクノソリューションズ
ソニーグローバルソリューションズ／楽天グループ／電通デジタル／キーエンス／パーソルプロセス & テクノロジー／オービック／ラキール など

調査・コンサルティング・広告代理店

野村総研／アクセンチュア／マクロミル／マネジメントソリューションズ／リヴァンプ／PwC コンサルティング など

卸売業・小売業

アストモスエネルギー／イオンリテール／三菱食品／すかいらく／三井物産スチール／日本マクドナルド／レイ・ヴィトン ジャパン／成城石井
フェリシモ など

教育

ベネッセコーポレーション／日能研 など

その他のサービス

エン・ジャパン／マイナビ／ビズリーチ／パーソルキャリア／ニチイ学館 など

公務員

- 中央省庁：文部科学省／経済産業省／総務省／厚生労働省／農林水産省／特許庁 など
- 裁判所：さいたま地裁／千葉地裁 など
- 都道府県庁：東京／茨城／埼玉／神奈川／千葉／石川／群馬 など
- 市区町村役所：文京区／荒川区／野田市／船橋市／古河市／仙台市 など
- その他：横浜税関／東京都主税局

教育研究機関・独立行政法人

筑波大学／横浜国立大学／一橋大学／常総学院高等学校／国立研究開発法人物質・材料研究機構／産業技術総合研究所
日本原子力研究開発機構／宇宙航空研究開発機構／国立文化財機構／都市再生機構（UR 都市機構） など

公共団体・組合等

青年海外協力協会 など

進学（大学院）

筑波大学／慶應義塾大学／東京科学大学／東京外国語大学／東京大学／東北大学／京都大学／千葉大学 など



宿舎に入居している学生を中心として、毎年5月末に開催される宿舎祭。参加の充実感120%。



新入生がキャンパスを飛び出して、アメリカンセンターJapanを訪問した時のものです。



授業の一環でサイバーダイナスタジオに出かけ、世界初のサイボーグ型ロボット「ロボットスーツHAL A.N.」を体験した時のひとコマです。

「大学生」の 生活 Campus Life

卒業式の後に、学類主催の祝賀会を開催しました。その一幕です。



社会学卒業生等を招いて毎年実施している就活相談会です。社会で活躍する先輩から貴重な意見を気軽に聴けるイベントで熱気があります。



11月に行われる学園祭「雙峰祭」の様子です。一般のお客さんとサークルや学類の屋台で賑わっています。毎年大変盛り上がる筑波大学最大のイベントです。

新入生が入学後スムーズに社会学類になじめるように、新歓イベントや先生との食事が楽しくにぎやかに開催されます。期待してください！

社会調査実習で福島の水族館へ出かけて放射線測定イベントに参加しました。キャンパスを飛び出して行う学類の実習や工場見学は楽しいですよ！



入学案内

入学定員 1 学年 80 名／編入 10 名

推薦入試

募集人員 16 名
試験時期 11 月下旬
試験科目 小論文および面接

一般選抜

募集人員 前期 40 名
試験時期 大学入学共通テスト …………… 1 月中旬
個別学力検査 …… **前期** 2 月下旬

▽ 個別学力検査（学類・学群選抜）の試験科目

前期 ●外国語（英）
●数学（数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ・数Ⅴ）、国語（現代文Ⅰ・古典Ⅰ）、
地理歴史（世界史Ⅰ・日本史Ⅰ・地理Ⅰから 1 科目を選択）の中から 1 教科を事前選択

※総合選抜（募集人員 20 名）、留学生特別プログラム入試（募集人員 4 名）については
大学アドミッションセンターの HP に記載。

編入学試験

募集人員 10 名
試験時期 11 月下旬
試験科目 各主専攻分野の専門科目、外国語および面接

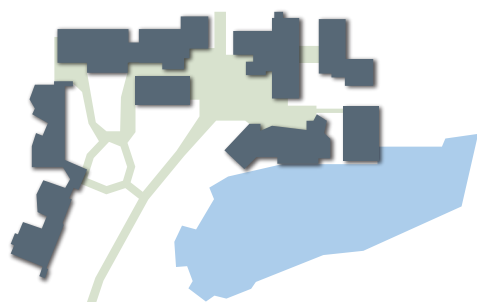
問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課 Tel. 029-853-6007
なお、募集要項の発表は、毎年 9 月下旬です。

※詳細は以下の URL まで
<https://ac.tsukuba.ac.jp/>
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html>

注意) 以上は、2026 年 6 月現在の情報です。

今後の変更については、筑波大学の HP 上などで公表いたしますので、必ずご確認ください。



筑波大学社会学類案内誌

社会学類への招待

2026 年 7 月 1 日 初版一刷発行 禁無断転載

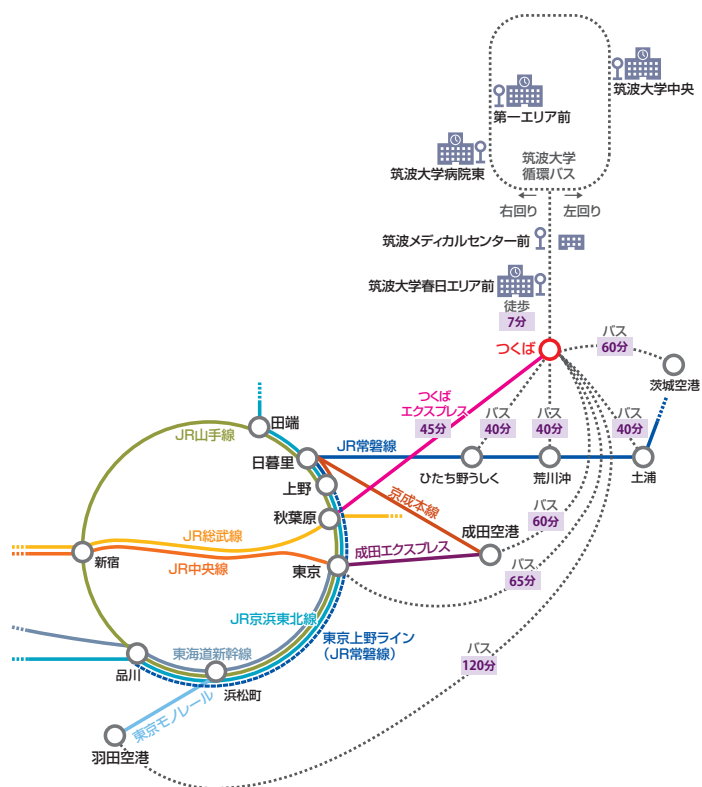
編集委員 学類長：五十嵐 泰正
社会学類広報委員：秋山 肇（委員長）、河合 晃一、田中 醇、三品 拓人

企画・編集 社会学類広報委員会

デザイン 松澤 康行
写真 小沼 渉

発行 筑波大学社会・国際学群社会学類
〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1
<http://shakai.tsukuba.ac.jp/>

印刷・製本 株式会社いなもと印刷



■ 筑波大学へのアクセス | Access

◎つくばエクスプレス

- 「秋葉原駅」から「つくば駅」まで最速45分
「つくばセンター」から
「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎高速バス

- 「東京駅八重洲南口」から「筑波大学」行きバス(約75分)
- 「東京駅八重洲南口」から「つくばセンター」行きバス(約65分)
「つくばセンター」から
「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎JR常磐線

- 土浦駅
西口バスターミナルから「つくばセンター」行バスで30分
- 荒川沖駅
西口バスターミナルから「つくばセンター」行バスで30分
- ひたち野うしく駅
東口バスターミナルから「つくばセンター」行バスで35分

「つくばセンター」から「筑波大学循環(右回り/左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車